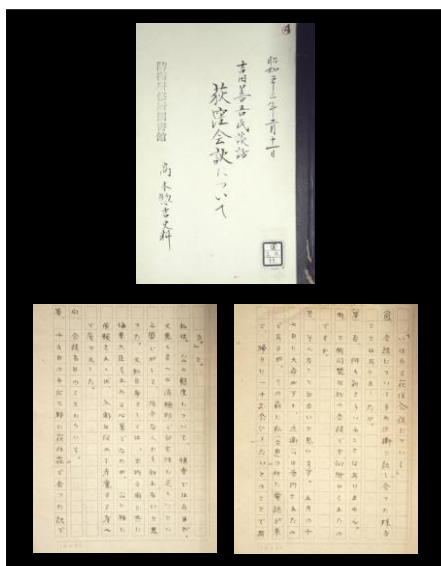


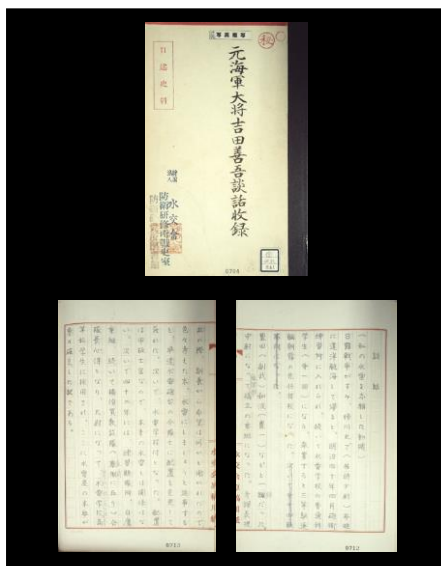
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 よしだ ぜんご 吉田 善吾 1885～1966年 》
—佐賀県出身の海軍大将—



萩窪会談について (登録番号: ㊟-高木-11)

吉田善吾大将は、明治37年11月、海軍兵学校(32期)を卒業後、練習艦隊司令官、第2艦隊司令長官、連合艦隊司令長官として連続3年7か月の海上部隊指揮官を務めたのち、昭和14年8月阿部内閣の海軍大臣に就任、次いで米内内閣、第2次近衛内閣でも留任します。この史料は「吉田善吾氏談話 萩窪会談について」(昭和23年2月11日、於吉田邸)で、近衛文麿伝を執筆した矢部貞治宛の書簡(昭和23年1月30日付)も添付されています。「萩窪会談」は、昭和15年7月19日、近衛が組閣にあたり、陸・海・外三相候補者(東條英機中将・吉田中将・松岡洋右)を東京萩窪の私邸に招いて開いた会談で、近衛はこれを「四柱会議」と名付けています。会談では、日独伊枢軸強化問題も含め、新内閣の推進すべき重要国策について意見交換が行われました。



元海軍大将吉田善吾談話収録 (登録番号: ㊟-委託-541)

日独伊三国同盟締結(昭和15年9月27日)直前の昭和15年9月3日、吉田は健康を害して入院、翌4日海軍大臣を辞任します。その後支那方面艦隊長官、横須賀鎮守府長官、軍事参議官などを歴任したのち、昭和20年6月1日予備役に編入、終戦を迎えます。この史料は「元海軍大将吉田善吾談話収録」で、昭和31年12月、水交会囑託の元海軍中将小柳富次氏が同会の委嘱により吉田邸を訪問し、日本海軍に関する懐旧談(海軍兵学校卒業から予備役編入まで)を聴取・収録したものです。このなかで吉田は、「今度の戦争は宿命だと云う人もある。宿命だと云えば宿命だとも云われようが、私はこれを防ぎ得る道はあったと思っている」と述べています(他に、「海軍大将吉田善吾私稿集」登録番号: ㊟-日誌回想-689)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線: 8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線: 03-3260-3011

FAX: 03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト: www.nids.mod.go.jp